

第1回

留辺蘂まちづくり協議会資料

北見市都市再生整備事業について	別冊
審査会 評価シート	1
補助金交付基準(案)	2
まちづくり協議会の進め方について(各委員からの発言要旨)	3

平成19年5月9日

事務局(総合支所 総務課)

審査会 評価シート

・評価については5段階評価の点数制 ・中間点の1.3点を事業採択の基準点とする

審査委員名 _____

評価項目	補助事業評価指標	評 価								備 考
		事業1	事業2	事業3	事業4	事業5	事業6	事業7	事業8	
社会的公益性	・特定の個人や団体の利益活動でないか ・会員相互の親睦活動でないか ・趣味・娯楽が主目的の活動でないか									
地域的必要性	・新市まちづくり計画で掲げられている、まちづくりを推進するための地域別整備方針に合致している事業か ・地域にとって必要な事業か ・特定の個人や団体の活動に終わるのではなく、多くの住民が参加できるか。また、多くの住民が交流できるか。地域に開かれた活動であるか									
地域貢献	・地域資源が活かされているか ・地域の歴史・文化・自然・環境などの特性が十分に活かされているか ・地域の課題をとらえ解決する活動であるか ・地域の活性化につながると考えられるか									
実現性	・計画内容、実施体制が十分に検討されているか ・収支計画に無理は無い ・住民自らが汗をかいて行なう事業か ・関係機関・団体等の許可、協議がされているか									
継続・発展	・持続性、定着の可能性は高いか ・自主財源の確保が可能か ・内容を年々充実させていく計画であるか。新しい活動展開の可能性はあるか ・継続するための組織体制はあるか									
自治区独自の視点										
評価		合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	
	補助金額案									

評価基準(1)

5	大変良い	指標を十分満たし、補助事業として他の活動団体の目標となる。
4	良い	指標を満たし、補助事業として他の活動団体のモデルとなる。
3	普通	指標を概ね満たし、補助事業として問題ない。
2	多少問題あり	指標を満たすことが困難であるが指導や研修などにより問題を解決できる。
1	良くない	指標を満たすことが困難で、補助事業として認めることが適当でない。

評価基準(2)

3	良い	指標を満たし、補助事業として他の活動団体のモデルとなる。
2	普通	指標を概ね満たし、補助事業として問題ない。
1	良くない	指標を満たすことが困難で、補助事業として認めることが適当でない。

補助金交付基準（案）

5段階の評価基準 6 評価項目を採用した場合 委員 1 人 30 点 中間点 16 点
 $30 \text{ 点} \times \text{当日の出席者数} = \text{合計点}$
 $\text{合計点} \div \text{当日の出席者数} = \text{平均点（中間点以上）}$

例 1 （要望額 100 万円以内の場合）

団 体 名	事 業 名	事 業 費	補助金要望額	点数
A 団体	地域振興事業	300,000 円	270,000 円	25
B 団体	づくり事業	100,000 円	90,000 円	16
C 団体	鑑賞事業	500,000 円	450,000 円	22
			810,000 円	

例 2 （要望額全体で予算額 100 万円を超えた場合）

団 体 名	事 業 名	事 業 費	補助金要望額	点数
D 団体	地域振興事業	1,000,000 円	900,000 円	18
E 団体	づくり事業	1,000,000 円	900,000 円	16
F 団体	鑑賞事業	500,000 円	450,000 円	23
			2,250,000 円	

例 1 では、補助金の要望額が 81 万円で予算額の 100 万円に達していない。

例 2 では、補助金の要望額が 225 万円で予算額の 100 万円を大きく超えている。

事業採択の基準点である中間点を満たしている団体は、点数に関係なく補助率を一律として、補助金を交付するのか、又は、点数によって補助率を設定し、補助金に差をつけるか。

要望額が 100 万円を超えた分については、一定の調整率を乗じて 100 万円以内に合わせるか。

一律で配分する場合

例 1 では、100 万円以内なので要望額のとおり A 団体 27 万円、B 団体 9 万円、C 団体、45 万円 合計 81 万円

例 2 では、100 万円を超えているので、 $100 \text{ 万円} \div 225 \text{ 万円} = 44\%$ 、要望額の 44% が交付される。 D 団体・E 団体ともに 39.6 万円、19.8 万円
 合計 99 万円

点数で補助率を設定する場合

平均点 30 点～26 点 10 分の 9 以内で 100% 補助

25 点～21 点 10 分の 9 以内で 90% 補助

30 点 10 分の 9 以内で 100% 補助

29 点 10 分の 9 以内で 99% 補助

まちづくり協議会の進め方について（各委員からの発言要旨）

今後の進め方について

- 1) 目指す留辺蘂自治区像を再確認しあいながら、留辺蘂らしい事業の発掘
- 2) 実施計画採択事業について、事業の進捗状況などを積極的に報告してもらい、協議会委員として、市民に尋ねられた場合、ある程度、説明できることが必要
- 3) 答申した事業がどのようなになったのか知るために、情報公開をしてほしい。まちづくり協議会でのチェックが必要

留辺蘂らしい事業

- 1) 瑞穂小中学校の存続と小中併置校での校舎改修、山村留学制度を取り入れた瑞穂小中学校の存続については、留辺蘂自治区独自の事業として位置づけ、まちづくり協議会としても、地域と連携しながら行政への働きかけをしていくことが確認されていますが、今後も継続して進めていくよう要望。

花のエリア・交流センター（花エール）の利用について

- 1) 有効に活用する方法を市民と協働して進めていってはどうか。まずは、市民への周知に向け、PRポスターの掲示や活用についてアイデア募集を行ってはどうか。イベント等の開催で身近になるような工夫を
- 2) 機械の使用方法がわからず立派な機械も使えないため、早急に指導者の設置が必要

留辺蘂の歴史資料について

- 1) 歴史を知る手がかりになる資料を整理し、若い人たちに残していく必要がある。昔を体感できるような、新しいイメージの利用しやすい歴史資料館を整備し、歴史が身近になるような事業を
- 2) 滝の湯地区、郷土資料館の倉庫にある資料の有効活用、展示場所をどのようにしていくのか協議したい
- 3) 留辺蘂町史の編さん

スポーツ振興

- 1) 福祉とスポーツの町を復活を
- 2) 街に元気がなくなったので、もっとスポーツの振興を
- 3) 八方台スキー場の有効活用
- 4) 弓道館の整備（ねんりんピック開催に合わせて）

産業の振興

- 1) 亜麻の栽培を推進しては
- 2) 白花豆の生産地として、ブランド化を農協と協力して強化すべき
- 3) 「馬喰一代」の中山正男が生まれた地ということで、馬肉の生産をしては
- 4) エゾ鹿対策として、鹿牧場を作り食用にしては
- 5) 農業・林業・観光の振興
- 6) 温根湯を観光拠点として、再生整備進めてほしい

公共施設の有効活用

- 1) 図書館の案内看板の作成
- 2) 公共施設の案内看板少なすぎるので、案内看板等を作成し、施設の有効活用を図ってほしい

その他

- 1) これまでに開催されてきたイベントの在り方を検討のうえ見直しを
- 2) 市民憲章の普及・啓蒙
- 3) 自治区のホームページの有効活用
- 4) 留辺蘂市街地区の中に住民が気軽に使える公園の整備
- 5) 道の駅を拠点に、木のおもちゃのリサイクル市を開催、木のまち留辺蘂として、自治区全体で取り組んでいきたい